

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

平成 28 年 1 月 21 日 (木) 15:30~16:30 懇談会

※懇談会終了後、お時間のある方は引き続きご懇談ください。

1. 挨拶

— 須藤健一 (館長) —

2. ニュースリリース

— 池谷和信 (議長) —

●みんなくの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

3. 特別展 「夷酋列像 —蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界—」

[詳しくはこちら](#)



蠣崎波響筆《夷酋列像》、寛政2年(1790)、フランス・ブザンソン美術考古博物館所蔵
※左から4番目のみ小島雲龍筆《夷酋列像模本》、天保14年(1843)、個人所蔵

極彩色の衣装に身を包み立ち並び、12人のアイヌの有力者たち。松前藩家老をつとめた画人、蠣崎波響が寛政2年(1790)に描いた「夷酋列像」は、時の天皇や、諸藩の大名たちの称賛を受け、多くの模写を生み出した。蠣崎波響筆のブザンソン美術考古博物館所蔵本と国内各地の諸本が、はじめて一堂に会します。絵をめぐる接する人、交叉する物、そして日本の内に胎動し始めた外の「世界」。18世紀から現在に続く、蝦夷地=北海道イメージを見渡します。

会 期：2016年2月25日(木)～5月10日(火)

休館日：毎週水曜日(5月4日(水・祝)は開館)

無料観覧日：3月13日(日)、5月5日(木・祝)

観覧料：一般420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、小・中学生110円(90円)

※本館展示もご覧になれます。

※フランス・ブザンソン美術考古博物館所蔵の「夷酋列像」の展示は4月19日(火)までです。4月21日(木)からは、国立民族学博物館所蔵の「夷酋列像」を全面展開して、展示します。

主 催：人間文化研究機構・国立民族学博物館、「夷酋列像」展実行委員会(北海道博物館、一般財団法人北海道歴史文化財団、北海道新聞社)、人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館

協 力：ブザンソン市(フランス)、松前町、一般財団法人千里文化財団

後 援：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、外務省、文化庁、北海道教育委員会、公益社団法人北海道アイヌ協会、NHK大阪放送局

— 佐々木 史郎 (先端人類科学研究部 教授) —

4. 本館展示リニューアル「中央・北アジア/アイヌの文化」展示(3月17日(木))

[詳しくはこちら](#)

「中央・北アジア」

中央・北アジアでは雄大で厳しい自然環境のもと、動物と深くかわりながら暮らしが営まれてきました。大河川の漁撈や草原の牧畜、そして人の一生を彩る儀礼など、あまり知られていないこの地域の魅力をご紹介します。



— 藤本 透子 (民族社会研究部 助教) —

「アイヌの文化」

日本の先住民族であるアイヌは、北海道を中心に本州北部、千島列島、サハリン南部に住み、隣接する民族との交流のなかで文化を形成してきました。伝統を継承しつつ、新たな文化を創造する人びとの姿を紹介します。



— 齋藤 玲子（民族文化研究部 助教） —

5. 研究公演「東南アジアの仮面と人形」

[詳しくはこちら](#)

ラオス、カンボジア、マレーシア、インドネシア（ジャワ、バリ）などの芸能を取り上げ、パフォーマンスや映像を交えたお話とワークショップをシリーズで開催します。

日時：

2016年2月13日（土）、2月14日（日）、2月20日（土）、
2月21日（日）、2月27日（土）、2月28日（日）

各回 11:00~13:00（開場 10:30）

場所：国立民族学博物館 第5セミナー室

参加費：無料 要事前申込（～1月26日（火）必着）



— 福岡 正太（文化資源研究センター 准教授） —

6. 学術潮流サロン

「公共人類学×公共社会学——学問と社会のつながりを考える」

[詳しくはこちら](#)

近年、人文・社会科学では「公共」の二文字を冠する新たな学術領域が生まれています。この潮流は、視点や方法の違いこそあれ、議論を学問領域に閉じることなく、市民、NGO、企業、学校、メディアなどの公共空間に開いて、学問と社会の双方にとって有益な関係を構築することを目指しています。本サロンでは、そのうち「公共人類学」と「公共社会学」をめぐる学術潮流の紹介と議論をおこなうことを目的としています。

日時：2016年2月13日（土）14:00～（開場は13:00～）

場所：国立民族学博物館2階 第4セミナー室

一般公開（参加無料／要事前申込／定員70名）

主催：国立民族学博物館研究戦略センター

— 河合 洋尚（研究戦略センター 助教） —

7. 国際ワークショップ「フォーラム型情報ミュージアムのシステム構築に向けて

ーオンライン協働環境作りのための理念と技術的側面の検討

[詳しくはこちら](#)

現在実施中のフォーラム型情報ミュージアムプロジェクトに関して、情報生成型データベースのシステム構築に向けた技術と、民族学博物館とソースコミュニティとの協働環境作りに向けた基本理念を検討します。学術協定を締結した北米の博物館などの専門家や日本国内の研究者と共に、開始から約18ヶ月が経過した本館のプロジェクトの進捗を、世界的な視野から学際的に確認することで、新たな展開を探ります。

日時：2016年2月11日（木・祝）/2月12日（金）10:00～18:00

場所：国立民族学博物館 第4セミナー室

一般公開（参加無料/要事前申込/定員60名〔先着順〕）

使用言語：英語（日本語逐次通訳）

主催：国立民族学博物館

共催：国立民族学博物館 「人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築」プロジェクト、日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究A「ネットワーク型博物館学の創成」、日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究A「日本国内の民族学博物館資料を用いた知の共有と継承に関する文化人類学的研究」

ー 伊藤 敦規（研究戦略センター 准教授）ー

8. 国際シンポジウム

「無形文化遺産の継承における『オーセンティックな変更・変容』」

[詳しくはこちら](#)

遺産の同一性と活力を同時代的条件に合わせて保持するために、遺産の担い手たちはなにをみざし、何を必要としているのでしょうか。無形文化遺産の現代的課題を理解できれば、その解決に研究者は資することができるのでしょうか。本シンポジウムでは、担い手に寄りそいつつ調査を続けてきた研究者たちが、神事・芸能と工芸製作を題材として問題を討議します。

日時：2016年3月11日（金）～13日（日）

場所：国立民族学博物館 第4セミナー室

一般公開（参加無料/要事前申込/定員60名〔先着順〕）

使用言語：英語（日本語同時通訳あり）

主催：国立民族学博物館

ー 飯田 卓（先端人類科学研究部 准教授）ー

9. みんなく映画会「波伝谷に生きる人びと」

[詳しくはこちら](#)

みんなくでは、東日本大震災以降、被災地の生活文化への支援を継続して実施しています。現在、震災の記憶の風化や、震災以前の生活の記憶が失われつつあることへの課題が浮かび上がっています。そこで、震災以前から宮城県南三陸町波伝谷の生活を撮り続けてきた我妻和樹監督作品の「波伝谷に生きる人びと」を上映します。本映画では、我妻監督と波伝谷の方々をお招きし、震災以前の生活や震災時の記憶がなぜ大事なのか、皆さんとともに被災地の将来について考えます。



日時：2016年2月6日（土）13:00～16:15（開場12:30）

場所：国立民族学博物館 講堂

参加費：要展示観覧券（事前申込不要/定員450名）

※入場整理券を11:00から観覧券売場にて配布。

主催：国立民族学博物館

ー 池谷和信（議長）ー

10. みんなくワールドシネマ「サンドラの週末」

[詳しくはこちら](#)

突然の解雇を突き付けられたサンドラが最後の猶予に賭けて奔走する週末を通して、ヨーロッパの厳しい労働状況の中で、生存競争を賭けた個人と人間関係を繊細に描きます。

日 時：2016年3月20日（日）13：30～16：00（開場13：00）

場 所：国立民族学博物館 講堂

参加費：要展示観覧券（事前申込不要／定員450名）

※入場整理券を11：00から観覧券売場にて配布。

主 催：国立民族学博物館



— 池谷和信（議長） —

11. 最新の研究紹介

[詳しくはこちら](#)

「コリアン社会の変貌と越境」フィールドワーク選書17

（朝倉敏夫 著／臨川書店）

— 朝倉 敏夫（民族社会研究部 教授） —



国立民族学博物館

懇談会についてのお問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話：06-6878-8560（直通） FAX:06-6875-0401 Mail:koho@idc.minpaku.ac.jp